２０２６バクー世界柔道選手権大会



令和８年１０月１１日（日）、アゼルバイジャンの首都バクーにおいて行われた「２０２６バクー世界柔道選手権大会」の男女混合団体戦に日本代表メンバーとして**内村秀資**（うちむらしゅうすけ）３等陸尉が出場し、日本チームが優勝の成果を収めた。



昨年同大会で連覇が７で止まり銅メダルに終わった日本チームは王座奪還を目指し１２名の選手を揃えて今大会に臨んだ。日本は、モンゴル、キルギス、アゼルバイジャン及びオーストリアがいるプールＢに入り決勝進出を目指した。

日本チームは初戦のアゼルバイジャンに４―１で勝利すると準々決勝ではモンゴルチームとの対戦となり内村３尉が出場した。一番手の５７ｋｇ級大森朱莉選手（ＪＲ東日本）が勝利し、二番手の７３ｋｇ級の内村３尉に繋いだ。相手は世界ランキング１７位のオドゲレル選手。有効と技有を奪われた内村３尉は、残り１０秒を切ったところで小外掛を繰り出し、残り２秒で一本を奪い大逆転勝利を収め２勝０敗として三番手の７０ｋｇ級前田凛選手（環太平洋大学）に繋いだ。四番手田嶋剛希選手（パーク２４）と五番手の新井万央選手（ＡＬＳＯＫ）が勝利し日本チームはモンゴルチームを４―１で破り準決勝進出を決めた。

準決勝の相手は前回大会で敗れた中国チーム。内村３尉は一番手としてザング選手と対戦。ザング選手が開始１０秒の技を仕掛けに来るとすぐさま反応し豪快な大内返で一本を奪い幸先の良いスタートを切った。内村３尉の勝利をきっかけとして三番手、四番手が連勝。日本チームは３―０で中国に圧勝し決勝進出を決めた。

決勝の相手はロシアチーム。内村３尉の出場はなかったが、日本チームは強敵を相手に４―１で快勝。王座奪還を果たし、２年ぶり８度目の金メダルに輝いた。

日本チームの優勝に２戦２勝と大きく貢献し金メダルを手にした内村３尉は「チーム一丸となって戦い、優勝に貢献することができて嬉しい。たくさんの応援ありがとうございました。」と喜びを語った。





